

(電子メール施行)  
農技第1353号  
令和2年12月21日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第7号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第7号

向こう3か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
キャベツ	黒腐病	やや少	やや少
	菌核病	平年並	やや少
タマネギ	白色疫病	やや少	少
	細菌性病害	平年並	平年並
	べと病	やや少	少
	ネギアザミウマ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
ネギ	ネギアザミウマ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
レタス	菌核病	<b>やや多</b>	平年並 <b>(早い)</b>
	灰色かび病	平年並	やや少
	腐敗病	平年並	やや少
	ビッグベイン病	<b>やや多</b>	平年並 <b>(早い)</b>
イチゴ	灰色かび病	やや少	少
	うどんこ病	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	平年並	平年並
	ハダニ類	平年並	やや少
トマト	灰色かび病	<b>平年並～やや多</b>	平年並 <b>(早い)</b>

\* 気象の概況

近畿地方 3か月予報  
(12月から2月までの天候見通し)

令和2年11月25日  
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

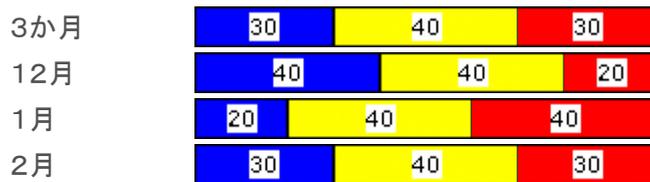
【気 温】

[近畿地方]



【降 水 量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



【降 雪 量】

[近畿日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

\* 発生概況及び防除対策上の留意点

## キャベツ

### 1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の現地予察調査では発病は確認されていないが、生産現地では一部圃場の特定の品種で発生が認められている。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生はやや少ない発生で推移すると考えられる。

### 2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の現地予察調査では一部の圃場で発生が認められている。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病は平年並の発生になると考えられる。

## タマネギ

### 1 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の現地予察調査(苗床)、12月上旬の予察圃場とも発病は認められなかった。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病はやや少ない発生になると考えられる。

### 2 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の予察圃場、現地予察調査とも発病は認められなかった。生産現地(苗床)では前年と同程度の発生が認められている。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されていることから、発生は平年並で推移すると考えられる。

### 3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の予察圃場、現地予察調査とも発病は認められなかった。
- イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病はやや少ない発生になると考えられる。

### 4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬の現地予察調査では発生は認められなかったが、12月上旬の予察圃場(加西市)では、成虫26頭/25株(平年値12.5頭)、幼虫27頭/25株(平年値 2.0頭)の発生が認められ、やや多い発生であった。
- イ 冬季は繁殖等の活動性が著しく低くなるものの、越冬個体群が現状のまま引き継がれるため、やや多い状態で推移すると予想される。
- ウ 本種はタマネギえそ条斑病の病原であるアイリス黄斑ウイルス(IYSV)を媒介するので、特に春先の発生状況や病徴の発現に注意すること(IYSVについては令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号、令和2年7月14日付けを参照する。HPに掲載中)。

(3) 防除上の留意点

- ア 薬剤防除は地域の防除暦に従って実施して、圃場内の密度を下げるようにする。薬剤散布にあたって散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が十分付着するように行う。
- イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。  
病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)  
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)
- ウ 圃場内外の雑草や収穫後の残渣は、本種の増殖源やIYSVの感染源になるので、除草や残渣処分を徹底する。また、本種成虫は窒素濃度の高い葉を好むので過度な窒素肥料の施用を避ける。

## ネギ

### 1 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬の予察圃場では被害葉数75枚/75葉(平年値20.6枚)、現地予察調査では発生圃場率50.0%(前年同期値33.3%)、発生葉率9.8%(同2.7%)と、やや多い発生であった。
- イ 冬季は繁殖等の活動性が著しく低くなるものの、越冬個体群が現状のまま引き継がれるため、やや多い状態で推移すると予想される。
- ウ 本種は、ネギえそ条斑病の病原であるIYSVを媒介するので、特に春先の発生状況や病徴の発現に注意すること(IYSVについては、タマネギ同様、令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号、令和2年7月14日付けを参照する。HPに掲載中)。

(3) 防除上の留意点

- ア 薬剤防除は地域の防除暦に従って実施して、圃場内の密度を下げるようにする。薬剤散布にあたって散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が十分付着するように行う。
- イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

ウ 圃場内外の雑草や収穫後の残渣は、本種の増殖源やIYSVの感染源になるので、除草や残渣処分を徹底する。

エ 圃場周辺を囲うよう赤色ネットの設置や光反射シートやシルバーマルチの利用も効果がある。

## レタス

### 1 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の現地予察調査では発生圃場率6.3%(同 0%)、発病株率0.13%(平年値 0%)と、一部地域で発生が認められている。12月上旬の予察圃場では発病は確認されなかった。発生量は平年並(12月上旬平年値は発生圃場率8.3%、発病株率0.2%)であるが、**発生時期は平年より早い**。

イ 今後3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されている。栽培現場ではトンネル被覆をすることから、本病の発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 発病株は早期に発見し、菌核が形成される前に抜き取って圃場外で処分する。発病が認められた圃場では二次感染が懸念されるので、薬剤散布を実施する。

イ 本病はトンネル内の湿度が上昇することによって発生が助長される。そのため、適切なトンネル管理に努める。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

### 2 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の現地予察調査、12月上旬の予察圃場ともに発病は確認されていない。生産現地では一部の圃場で発生が認められている。

イ 本病はトンネル内の湿度が上昇することによって発生が助長される。そのため、適切なトンネル管理に努める。

ウ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されている。栽培現場ではトンネル被覆をすることから、本病の発生は平年並になると考えられる。

### 3 【腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 12月上旬の予察圃場では発病は確認されていないが、11月下旬の現地予察調

査では発生圃場率6.3%(前年同期値 0%)、発病株率0.13%(同 0%)と、一部の圃場で発生が確認されている。

イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されている。栽培現場ではトンネル被覆をすることから、本病の発生は平年並になると考えられる。

#### 4 【ビッグベイン病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の現地予察調査では、発病株率0.19%(前年同期値 0%)、発生圃場率9.4%(同 0%)、12月上旬の予察圃場では発病株率34.0%と、発生量は平年並であるが、**発生時期は平年より早い**。

イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低く、降水量は平年並～少ないと予想されている。しかしながら、本年産春レタスでは発生は平年並であり、本病は土壌病害であること、本病を媒介する*Olpidium virulentus* が圃場内に一定量存在することが考えられ、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本病を媒介する*O. virulentus* は主として水媒伝染するため、ほ場の排水を良好に保つ。また、本菌は高pH(6.0以上)を好むため、土壌pHを下げる肥培管理を行う。

## イチゴ

#### 1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 12月上旬の現地予察調査では発病は確認されていない。

イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低いと予想されており、施設内では好適な条件であることから、本病の発生が認められるようになると考えられる。

#### 2 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 12月上旬の現地予察調査では発病株率5%(前年同期値 3%)、発生圃場率50%(同 50%)と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低いと予想されており、施設内では好適な条件であることから、本病はやや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 防除は予防に重点を置く。発病を認めた時は、散布間隔を短くして集中的に散布する。発病果は有力な伝染源となるので速やかに除去する。薬剤散布を行う場合は、薬液が葉裏や未展開葉のすき間に届くように行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）  
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

### 3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地予察調査では、発生圃場率は50%であったが、発生株率14%と発生程度としては並であった。
- イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低いと予想されており、このまま平年並の発生が続くと考えられる。

### 4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地予察調査では発生は認められなかったが、生産現地では一部の圃場で発生が認められ、現状はやや少ない発生であった。
- イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低いと予想されているが、施設内ではハダニ類に好適な条件であることから、増殖が進み平年並の発生となると考えられる。

## トマト

### 1 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並～やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 11月の現地予察調査(抑制栽培)では発生果率0.1%(前年同期値 0%)、発生圃場率14.3%(同 0%)であった。11月上旬に発生果が認められた圃場もあり、**早い時期から発生が認められている。**
- イ 今後の3か月の気象予報によると、気温は平年並～低いと予想されている。トマト作付の中心は促成栽培など、異なる作型に移行するが、施設内では朝方の冷え込みや湿度の上昇で本病に好適な条件となることから、発生は平年並～やや多くなると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 施設内の保温と換気に注意して発生を抑える。また、発生した場合は発病果が伝染源になるので、見つけ次第除去することが重要である。
- イ 発病前に予防的に薬剤防除を行う。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
- 病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）  
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)